

"Let's make a difference!"

(「選択」が可能な米国の教育事情)

世界のごどもネット代表理事

吉田 里江

(国際交流基金日米センターNPOフェロー)

市民社会への移行期にあたり、教育セクターにおいても、多様な選択肢を可能とするインフラ整備が必要です。現在、日本においても、多様な選択肢ができるような教育環境整備が進んでいますが、今回は、米国において「選択」(チョイス)が可能となるような環境がどのように作りだされてきたかについて、大まかな流れをみていきたいと思います。

米国は、1900年代半ばから、公共財としての教育、個人の成長と自己実現のための教育、強い経済を担う競争力の高い労働力のための教育といった3つの大きな流れのもと、市民の教育参加の機会拡大にむけた取り組みをしてきました。

1970年代に、オルタナティブ教育が登場し、スクールチョイスという概念を普及し、1980年代には、マグネットスクールが主流となり、1990年代には、チャータースクールが全米に広がり、「教育を選択する自由」の流れが脈々とつくられてきました。現在、「教育を選択する自由」の流れは、

行政・企業・市民セクターの多様な形態の協働のもと、「教育を選択する責任」を教育システムの中に取り組んでいます。

米国では、「教育を選択する自由」「教育を選択する責任」を教育システムの中に取り込んでいく過程で、「家庭・学校・地域の連携」を促進するために親の教育参加をひきだす新たなプログラムの展開、学校改革の推進、体験活動・ボランティア活動・奉仕体験活動等を中心とした横断的なカリキュラムづくり、地域の行政・企業・市民セクターの教育参加の機会拡大など、抜本的な改革が進行し、成果を上げています。

日本の教育も、現在、選択肢の拡充にむけて、いろいろな取り組みがはじまっています。政策形成においても、フィールドの活動においても、改革を実質的なものとするかどうかは、今後の教育セクターの構造改革の過程において、非営利セクターの基盤強化をどこまで進めることができるかによって、決まるにちがありません。

事務局

日誌

石川 雅子



皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。今年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本当に1年って早いんですねー。仕事をしていると尚更です。1日が早い、1週間が早い、1ヶ月が早い...、と思っていると、あっという間に1年が過ぎていく、そんなことを毎年感じています。

「時間ができたらあんなことしたい」などとのんびり考えていてはダメなんですよね。やりたいことは、「やりたい」と思った時に行動に移さないと、きつとい

つまで経ってもできないんでしょうね。「時間はつくるもの」だと、いつも頭を切り替えようとはしているのですが、「忙しい」という理由を自分の中につくってしまっていたりするんですね。

よし！今年は、仕事が忙しくても「心に余裕」を持って毎日を過ごしたい！でないと、心にトゲトゲができて嫌な自分になっちゃいそうです。

今年の抱負！皆さんはどんなことを目標に、この1年を過ごしていられるのでしょうか？どうぞこの1年が皆様にとってステキな年になりますように・・・。